

[◀ 前のページに戻る](#)

消化管機能分子と血清タンパク質の系統的解析による抗糖尿病機能性糖鎖の開発

研究課題

産学が連携した研究開発成果の展開 > 研究成果展開事業 > 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) > シーズ育成タイプ

企業責任者	太陽化学株式会社
研究責任者	内藤 裕二 京都府立医科大学, 大学院医学研究科, 准教授
研究期間 (年度)	2011 - (非公開)
研究課題ステータス	移管 平成26年度（2014年度）をもってAMEDに移管

URL: <https://projectdb.jst.go.jp/grant/JST-PROJECT-11104995/>

JSTプロジェクトデータベース掲載開始日: 2015-09-30 JSTプロジェクトデータベース最終更新日: 2020-12-16

KAKEN

[◀ 前のページに戻る](#)

粘膜関連細菌叢と粘膜バリアを標的とした生活習慣病への治療応用

研究課題

研究課題/領域番号	20K11513
研究種目	基盤研究(C)
配分区分	基金
応募区分	一般
審査区分	小区分59040:栄養学および健康科学関連
研究機関	京都府立医科大学
研究代表者	壺田 和弘 京都府立医科大学, 医学(系)研究科(研究院), 助教 (60593910)
研究分担者	高木 智久 京都府立医科大学, 医学(系)研究科(研究院), 准教授 (70406257)
研究期間 (年度)	2020-04-01 - 2023-03-31
研究課題ステータス	交付 (2020年度)
配分額 *注記	2,860千円 (直接経費: 2,200千円、間接経費: 660千円) 2022年度: 780千円 (直接経費: 600千円、間接経費: 180千円) 2021年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円) 2020年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円)
キーワード	粘膜バリア / 粘膜関連細菌叢 / 生活習慣病

研究開始時の研究の概要

生活習慣病などの様々な疾患において、腸内細菌叢の変容はその病態の発症・進展に密接に関連している。腸内細菌叢の変容がもたらす腸管恒常性の破綻について研究が進められているが、腸管粘膜上皮に密接に関わる粘膜関連細菌叢や粘膜バリアについて十分解明されていない。生活習慣病やリーキーガット症候群の動物モデルやUssing chamberシステムを用いて粘膜関連細菌叢や粘膜バリアを介した腸管粘膜上皮の制御機構を解明した先行研究を発展させ、本研究では、粘膜関連細菌叢の変容や粘膜バリアの強化に資する機構を解明し、治療標的のスクリーニングを行い、粘膜関連細菌叢や粘膜バリアを標的とした生活習慣病への治療応用を行う。

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-20K11513/>

公開日: 2020-04-28 更新日: 2020-08-26

KAKEN

[前のページに戻る](#)

H s p 2 7 と S P A R C 蛋白質の同定・機能解析と大腸癌における意義解明

研究課題

研究課題/領域番号

25460958

【サマリー】

研究種目

基盤研究(C)

配分区分

基金

応募区分

一般

研究分野

消化器内科学

研究機関

京都府立医科大学

研究代表者

内藤 裕二 京都府立医科大学, 医学(系)研究科(研究院), 准教授 (00305575)

研究分担者

内山 和彦 京都府立医科大学, 医学(系)研究科(研究院), 助教 (50298428)
高木 智久 京都府立医科大学, 医学(系)研究科(研究院), 准教授 (70405257)
伊藤 友子 (大矢 友子 / 伊藤 友子(大矢友子) / 大矢友子) 名古屋大学, 医学(系)研究科(研究院), 助教 (80329848)

研究期間 (年度)

2013-04-01 - 2016-03-31

研究課題ステータス

完了 (2015年度)

配分額 *注記

4,810千円 (直接経費: 3,700千円、間接経費: 1,110千円)
2015年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円)
2014年度: 1,560千円 (直接経費: 1,200千円、間接経費: 360千円)
2013年度: 1,950千円 (直接経費: 1,500千円、間接経費: 450千円)


キーワード

翻訳後修飾熱ショック蛋白質 / SPARC / バイオマーカー / 腸管粘膜免疫 / 大腸癌 / メチルグリオキザール / 熱ショックタンパク質

研究成果の概要

大腸癌におけるバイオマーカータンパク質の研究を展開し、3年間の研究期間において、1) メチルグリオキザール修飾熱ショック蛋白質 (Hsp27) と 骨格筋で同定されたマイオカイン蛋白質 (SPARC) の大腸発癌における細胞生物学的、2) 大腸癌微小環境、特に炎症病態におけるHsp27蛋白質と SPARC蛋白質の相互作用、3) 臨床検体を用いたMG修飾Hsp27蛋白質、SPARC蛋白質の予防・診断マーカーとしての意義を明らかにした。特に、SPARC蛋白質が骨格筋だけでなく、腸管炎症病態においてリンパ球の分化誘導に重要な役割を果たしていることを解明できた点は新知見である。


報告書 (4件)

2015 実績報告書 研究成果報告書 ( PDF)

2014 実施状況報告書

2013 実施状況報告書

研究成果 (21件)

 2016 2015 2014 2013 その他 雑誌論文  学会発表  図書  備考  産業財産権

[雑誌論文] Propionate Promotes Fatty Acid Oxidation through the Up-Regulation of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor alpha in Intestinal Epithelial Cells.

2015 